

社会福祉法人長寿会の50年とこれから

社会福祉法人長寿会 50周年記念誌

Social Welfare Corporation Chojukai 50th anniversary magazine

50th ANNIVERSARY



社会福祉法人長寿会の50年とこれから

社会福祉法人長寿会 50周年記念誌
Social Welfare Corporation Chojukai 50th anniversary magazine



球心探究

地上に住んでいる人達が
みんな地球と同じように
丸い心であつたなら争いも
なく日々喜びが満ちあふれる
長寿乃要諦はこれにつきる
この地を丸山という ここに
石球を配し参する人々乃心の
よすがとする

長寿会不惑を記念して
平成六年三月二四日
理事長 加藤 泰純

長寿の鐘

球心を思い願いて鐘鳴らす

社会福祉法人長寿会
創立五十周年を記念して
令和三年一月一六日

理事長 加藤 馨





ご挨拶

社会福祉法人 長寿会
理事長 加藤 馨

社会福祉法人長寿会は神奈川県西部、箱根連山の塔の峰の山麓に位置し、豊かな自然環境に恵まれ、温暖な気候の中四季の移り変わりを肌で感じられる環境に位置しております。施設近くの国道が新春恒例の箱根駅伝のコースとなっており、箱根山の上り坂に差し掛かるタスキリレーの場所となっているかまぼこ店の近くに位置しております。毎年正月になると入居者や職員とともに若い力に声援を送っております。

社会福祉法人長寿会の成り立ちは戦後間もない昭和27年に法人創設者の加藤泰純が日本の老親の住まいとしてこの地を求めたことに遡ります。

加藤泰純は会津若松出身で海軍志願兵として出征し、終戦を迎え、東京にある大学に復学しました。焼け野原の東京では住むところも食べるものも仕事もない浮浪児や街娼婦が街にあふれていました。根っからの福祉事業家である加藤泰純は学生の傍ら農山村慰問、学徒援護活動、キャサリン台風の救済活動、そして、浮浪児や街娼婦の自立自助を助ける更生運動に取り組みました。戦後の混乱期がひと段落したところで、社会活動の総決算として戦争で子供たちを失った老いた親たちや寄る術のない老人たちが心安らかに住むことのできる場所をつくろうと決意したのでした。

昭和28年に老人ホーム長寿園を開設しました。定員10人入居者5名で開所し、昭和35年に定員20名、昭和40年には財団法人長寿会を設立し定員50名の有料老人ホームになりました。日本は高度経済成長時代に突入し、高齢化時代へ向かうなかで、入居期間の長期化とインフレによる貨幣価値下落で経営面では塗炭の苦しみを舐めた創設者は振り返っていません。

一方、高度経済成長は日本の公的福祉制度を整備することになりました。医療保険制度・年金制度が発足し昭和36年には国民皆保険となりました。昭和38年には老人福祉法が成立し、施設福祉施策により公的資金補助による養護老人ホームや軽費老人ホームが整備されだしました。老後の期間が長期化することにより、貯蓄の切り崩し生活の維持が困難になることや療養の発生など高齢者自身の経済的・身体的状況が様々に変わっていくことになりました。



創設者 加藤 泰純

そのような状況に対応するために創設者は社会の要請に応え昭和46年に社会福祉法人の認可を受け、昭和47年に独居等の高齢者が年金の範囲内で安心して生活できる軽費老人ホーム箱根山荘を開設しました。さらに、常時介護が必要な方のために特別養護老人ホーム陽光の園を開設しました。

昭和の終わりから平成になると日本の高齢化はさらに進み在宅での介護負担が社会的な問題となりました。地域社会により貢献するために社会福祉法人長寿会はデイサービス・ショートステイ等在宅介護を援助する福祉サービスに取り組みました。介護の社会化の流れで平成12年に介護保険制度が発足しました。地域ニーズの拡大に伴い在宅事業を拡充するとともに、筋トレ事業等の介護予防事業の実施や包括支援センターの運営受諾など、より広域の地域ニーズに対応する体制を整備して令和の時代を迎え今日の姿になりました。

さて、社会福祉法人長寿会は創設者が掲げた「高齢者に円満幸福な生活を送っていただくために、うるおいとぬくもりのサービスを総合的に継続的に提供すること」を理念にしています。そして、家族的な雰囲気の中でご入居者が個々に尊重されつつ穏やかな生活が送れるホームとなるよう常に心がけることを大切に運営してきました。

治療のための施設である病院や娯楽や休養のための宿泊施設であるホテルと生活施設である老人ホームとの違いはよく言われることですが、実際にご入居者の多くが住民票も含めて移住してまいります。半世紀を超える長寿会の歴史は職員と苦楽を共に過ごされた1,000名をはるかに超える入居者の生活の歴史であります。

人それぞれの寿命は神様にしかわかりません。長い生活を継続的に支え、人生を支援する仕事は多くの職員で成り立つとともに世代ごとに受け継いでいかねばなりません。人から人へタスキを渡し長い距離を走る駅伝のようなものです。



現在の長寿会

創設者から引き継いだタスキを次の世代へしっかりと渡さなければなりません。今後の社会状況や福祉ニーズの変化に柔軟に対応しつつ原点を忘れず走り続ける長寿会にしたいと思います。

これからの50年も皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



昭和30年代 みかん畑の中の老人ホーム



社会福祉法人長寿会 創立 50 周年によせて

神奈川県知事 黒岩 祐治

社会福祉法人長寿会が創立50周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。
貴法人におかれましては、昭和47年に「軽費老人ホーム箱根山荘」を、昭和53年に「特別養護老人ホーム陽光の園」を開設されました。時代のニーズに応じてショートステイやデイサービス、地域包括支援センターなど地域に暮らす高齢者のためのサービスに取り組み、県西地域の高齢者福祉の発展に大きな役割を果たしてこられました。また、貴法人の理事長におかれましては、現在、一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会の会長として、本県の高齢者福祉の発展に御尽力いただいています。

特別養護老人ホーム陽光の園では平成28年から経済連携協定(EPA)に基づく外国人介護福祉士候補者を受け入れ、介護を通じた国際連携に取り組みされており、また、令和元年にはサービスの質の向上や人材育成、処遇改善等に顕著な成果をあげた施設として「かながわベスト介護セレクト20」に選出されるなど、貴法人の業績は高い評価を得ておられます。これまで運営に御尽力された関係者の皆様の御努力は計り知れないものがあり、深く敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。

超高齢社会が到来し、「人生100歳時代」を迎える中、本県では、高齢者が安心して、元気に、いきいきと暮らせる社会の実現に向けて、「かながわ高齢者保健福祉計画」のもと、地域共生社会の実現や災害・感染症への対応力強化といった新たな課題に対応するため、市町村と連携して様々な施策を展開しています。

こうした施策の一環として、健康と病気を連続的に変化するものととらえる「未病コンセプト」の取組を進め、世界保健機関(WHO)と連携して、未病状態を数値化する「未病指標」を開発しました。
私たちは今、介護現場でこの「未病指標」を広く活用して、皆様の日々のケアによって利用者の状態がどのように改善しているのかを「見える化」し、質の高いケアを実践している事業所が評価される仕組みに変えていきたいと考えています。

皆様がこれまで培ってこられた知見や経験を活かし、今後ともこうした本県の取組に御理解、御協力を賜りまして、高齢者福祉の向上にさらに御貢献いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、社会福祉法人長寿会のますますの御発展と、関係者の皆様の御健勝を心から祈念して、お祝いの言葉といたします。



お祝いのことば

小田原市長 守屋 輝彦

このたび、社会福祉法人長寿会が創立50周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。
貴法人におかれましては、県西地域における老人福祉事業の先駆者として、介護保険制度の発足以前から、軽費老人ホーム「箱根山荘」、特別養護老人ホーム「陽光の園」を設立されるほか、デイサービスの運営など、幅広く事業を展開されてこられました。また、地域で暮らす高齢者やその家族の相談拠点である地域包括支援センター業務を受託いただき、高齢者世帯が抱える複合的な課題に応じた様々な関係機関との連携を図り、本市の高齢者支援施策の充実に御尽力いただいているところです。

さらに近年、全世界に広がった新型コロナウイルス感染症対策では、日々御苦労されている中でも、御利用者と御家族の皆様の不安に寄り添い、御利用者が楽しく暮らせるよう、様々な工夫をされています。市民を代表して、長年にわたる地域福祉の御活動に敬意を表すとともに、感染症対策のもとでの介護サービスの維持確保に深く感謝申し上げます。次第でございます。

全国的に少子高齢化は急速に進展し、本市におきましても令和3年(2021年)には、市民の約3人に1人が高齢者という状況となりました。また、団塊の世代が75歳以上になる令和7年(2025年)を控え、高齢者数の増加や高齢化による要支援・要介護認定者数の増加が見込まれます。高齢化とともに認知症発症リスクも高まると言われており、今後ますます介護や福祉は、社会全体の大きな課題になってくるものと思われます。

そうした中、本市の第6次総合計画においては、2030年に向けた新たな将来像として「世界が憧れるまち“小田原”」を掲げました。まちづくりの目標に「生活の質の向上」を定め、生涯にわたって幸せと安心感を得られるまちを目指し、医療・福祉分野の重点目標として「地域共生社会の実現」と「健康寿命の延伸」を位置付けました。新型コロナウイルス感染症によりライフスタイルの変化が進む中においても、高齢者の心身の健康の保持・増進に向けた取組と介護保険事業の適切な運営を着実に進めてまいります。

貴法人におかれましては、今後とも小田原市の地域福祉を牽引していただくとともに、市民一人ひとりの自分らしい高齢期の実現を図るため、お力添えをいただきたくお願い申し上げます。

結びに、貴法人のますますの御発展と従事者の皆様の御活躍、利用者の皆様の御健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「長寿会」 設立50周年によせて

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
会長 平石 朗

社会福祉法人長寿会が創立50周年を迎えられ、「法人創立50周年記念誌」が発刊されますことに、心からお祝い申し上げます。

自然豊かな箱根連山の塔の峰の山麓に位置する長寿会は、昭和47年の事業開始以来特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ショートステイ等を幅広く運営されてきました。高齢者の方々に円満・幸福な生活を送っていただくために、「うるおいとぬくもりのサービスを総合的、継続的に提供すること」「家庭的な雰囲気の中でご入居者の皆さまが個々に尊重されつつ、穏やかな生活が送れるホームとなるよう常に心がけること」を大切な運営方針とされてきた結果、ご利用者の方々は累計で1,000名以上となりました。

また、市街地へ包括支援センターを設置して高齢者の方々の健康増進・介護予防・相談援助等のニーズに応えるとともに高齢者福祉の国際交流にもいち早く取り組まれました。そして、優良民間社会福祉事業施設・団体に対して金一封が下賜される「御下賜金」が授与される等、国際社会における日本の老人福祉施設の中心的な存在として発展してこられました。

このように長寿会は日本における先駆的な社会福祉法人として活動される一方で、加藤理事長は地元神奈川県高齢者福祉施設協議会の会長のみならず全国老人福祉施設協議会の代議員としても中心的な役割を果たしておられます。今後も引き続き創業者から受け継がれた社会福祉事業に対する熱い思いを全国の会員施設にしっかりとお伝えいただき、社会福祉法人のトップランナーとしての役割を果たしていただきますようお願いいたします。

長寿会の皆さまにおかれましては、次なる10年を一層豊かなものとしていただきますようご活躍をお祈り申し上げますとともに全国老人福祉施設協議会への引続きのご支援・ご鞭撻をよろしく申し上げます。



法人創立50周年にあたって

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
会長 篠原 正治

1971年（昭和46年）、「社会福祉法人 長寿会」は、夏は涼しく、冬は暖かい、一年を通じて温暖な気候の小田原の地に創立されました。

貴法人の創業者である前理事長の加藤泰純氏は、社会福祉法人の創立前である戦後の混乱期の中で、「戦争において子どもを失った身寄りのない方々が安心して暮らすことができる場所を作ろう」と決意され、入居者が5名の木造建築から事業を始められたと伺っております。

このような成り立ちを踏まえ貴法人では、「家庭的で温もりのある多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的、継続的に提供されるよう工夫する」「利用者が個人の尊厳を保持しつつ、円満・幸福な自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する」ことを目的としております。

貴法人におきましては、軽費老人ホームから始まり、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアセンター、グループホーム、地域包括支援センターなど、社会経済の状況や社会福祉制度の変革に合わせ、福祉サービスを必要とする利用者をはじめ、地域のニーズに対応し、新たな問題や課題を解決していくため、積極的かつ的確に各種事業に取り組まれてきました。

また、他の社会福祉法人より先駆け、外国人実習生や海外からの施設見学などを積極的に受け入れ、国際的な交流を進められてきたことなど、多方面に渡る活動は、貴法人の理念の具現化に向けて取り組まれてきた歴史がしっかりと刻まれております。これまで50年間における貴法人の職員及び関係者の皆さま方のたゆまぬご努力、ご尽力に対しまして改めて敬意を表します。

結びになりますが、今後も日々の生活のしにくさや生きづらさにつながる様々な問題や課題に直面した方々がより増えていくことが予想されております。貴法人におきましては、これらの問題や課題に対しましても、今まで積み重ねて来られた様々な経験をもとに、さらに地域に信頼され、頼られる社会福祉法人として、ますますのご発展とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。